

久宝寺寺内町遺跡第1次発掘調査

平成11年2月14日(日)現地説明会資料
財団法人 八尾市文化財調査研究会
調査担当 岡田 清一

1. 調査地 八尾市久宝寺3丁目269-1他
2. 調査事業名 「(仮称)まちなみセンター」建設に伴う発掘調査
3. 調査期間 平成10年10月26日～現在調査中
4. 調査面積 約460㎡

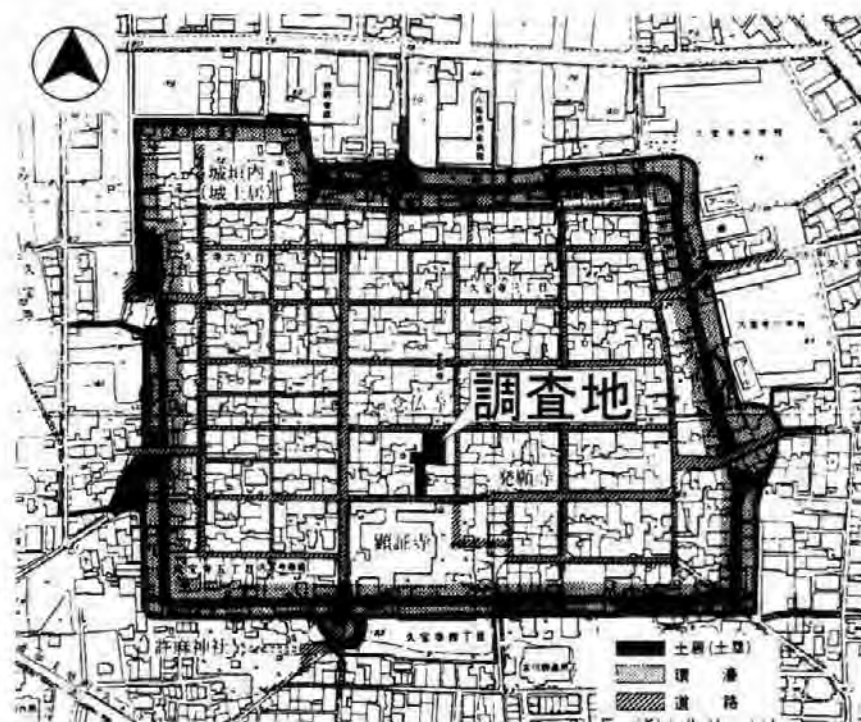
《久宝寺寺内町の概要》

寺内町とは寺院を中心として、その領地内に成立した町のことをいいます。久宝寺寺内町は、**願証寺**を中心に形成された町で、天文十年(1541)に室町幕府から寺内特権(雑税の免除など)を得た畿内でも古い寺内町です。寺内町の中心である願証寺は建設された当初は西証寺といい、文明2年(1470)蓮如上人が当地に布教した後、建立したお寺です。その後、西証寺は消滅しますが、天文四年(1535)に再建され願証寺と名前を変えます。久宝寺寺内町の町並みは西証寺再建から寺内特権を受けた天文十年までにはほぼ形成されていたと思われますが、寺内町が建設された当時の町割りには資料がないのでわかりません。しかし、江戸時代の絵図(注①)が2点現存しており、それには碁盤目状の町割りの周囲に二重の堀と土居が巡らされています。堀や土居は、戦国という動乱期に建設された防衛的機能を備えた寺内町であったことを物語っています。

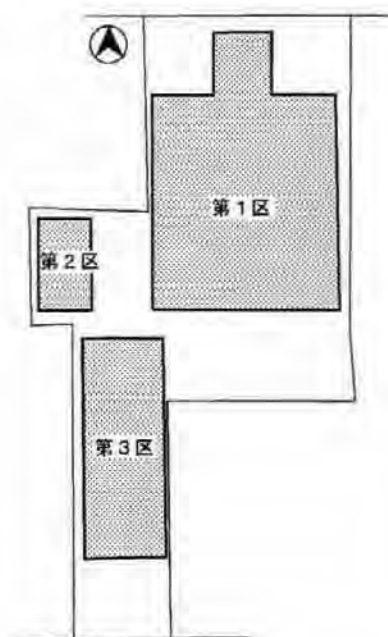
《調査の概要》

今回の発掘調査は、久宝寺寺内町遺跡内で行った最初の調査になります。調査区は3ヶ所(北から第1区～第3区)で、現在の地表面(標高9.0m前後)から1.4m前後を調査しました。第2区と第3区については昨年末で調査を終了しており、現在、北側の第1区を調査中です。

調査の結果、3区ともに現在地表面から約1.0mのところ、江戸時代(17～19世紀)ごろの町家を構成した井戸・柱穴・水路・土坑などが多数見つかりました(第1調査面)。遺構内からは伊万里焼・唐津焼・備前焼といった国産陶磁器類(皿・碗・甕・すり鉢等)をはじめ、北条銭・寛永通宝といったお金や土人形、また、大量の瓦類が出土しました。さらに約0.4m下で、『石山合戦』(注②)前後と見られる安土桃山時代(16世紀後半)ごろの建物跡や庭園の一部と見られる石列、水路施設(石組み水路・木樋)が見つかりました(第2調査面)。



久宝寺寺内町の復原図と調査位置図(注①から)



調査区配置図

【第1調査面】

【第1区】

調査区のほぼ中央では、南北方向に伸びる19世紀ごろの竹筒(径約15cm)で出来た管路が見つかりました。竹筒は幅約0.8m・深さ約1.0mの溝状に掘りくぼめられたなかに埋められており、竹筒暗渠と呼ばれるものです。この竹筒暗渠は生活用水を供給するものと思われ、調査区の南で見つかった井戸に接続されていることがわかりました。

調査区の北部では北東～南西に伸びる17～18世紀ごろの溝の中から人骨が見つかりました。性別・年齢の詳細については調査中です。調査区の北西部では建物に伴う礎石や柱穴などが見つかりました。また、南西部では瓦片がかたまってみつかりました(瓦溜め遺構)。

【第2区】

大甕6個体が南北に2列並んで埋められたままの状態で見つかりました(埋甕遺構)。上半部は破壊されていました。大甕は備前焼で、最大のもは口径約0.8m・高さ約1.0mを測ります。

【第3区】

調査区の北部で検出した落込み状遺構の中から、皿・碗・瓶といった日常雑器や大量の瓦と共に供養塔または墓標の一部と見られる五輪塔と宝篋印塔の一部が各1点ずつ見つかりました。

【第2調査面】

【第1区】

調査区の北東部に見られる焼土層(厚さ10～20cm)の下面で、建物に伴う礎石や柱穴・瓦溜め遺構が見つかりました。焼土層および遺構内に含まれる遺物(土師器皿・輸入青磁碗・瓦)の年代と文献史料との照合から、これらの遺構は天正五年(1577)『石山合戦』前後に相当するものであることがわかりました。

【第2区】

調査区のほぼ中央で、弧状を描く石列が見つかりました。庭園の一部と思われ、池であった可能性もあります。

【第3区】

調査区の北西部で北から南西方向に伸びる木樋を、南部では石組み溝を見つけました。木樋は径0.5m前後・長さ2.3m前後を測る丸太材を断面U字形にくりぬいたものです。石組み溝については、幅1.7m・深さ0.5m前後で、方位的には現在の町割り区画よりややずれています。木樋および石組み溝が埋まった土層内からは安土桃山時代(16世紀後半)ごろの土師器皿の破片が数点見つかりました。

《まとめ》

今回の調査では、江戸時代(17～19世紀)の遺構(第1調査面)と安土桃山時代(16世紀後半)の遺構(第2調査面)が見つかりました。特に第1調査面は17～19世紀にかけての遺構が重複しており、江戸時代から現代にかけての間、いくつかの建て替えを経ながら人々が生活していたことがわかりました。

第2区の第1調査面で見つかった埋甕遺構は、甕は貯蔵用に使われるという性格から当調査地周辺にも油屋や紺屋(染物屋)などの大甕を用いる商家があった可能性があります。また、第3区で見つかった落込み状遺構はごみ捨て場であったと考えられるほかに、供養塔や墓標と思われる石塔が見つかることから、近隣または下層において寺域が存在したとも考えられます。

第2調査面では天正五年(1577)に久宝寺寺内町が攻められた『石山合戦』当時の焼土層を見つけることが出来ました。なかでも16世紀後半の建物の柱穴や水路(石組み溝)の方位が17世紀以降の絵図や現在の町割と若干ずれていたことが確認出来ました。

(注①)・『元禄二年久宝寺村屋敷惣絵図』(高田家絵図) (元禄二年:1689年)

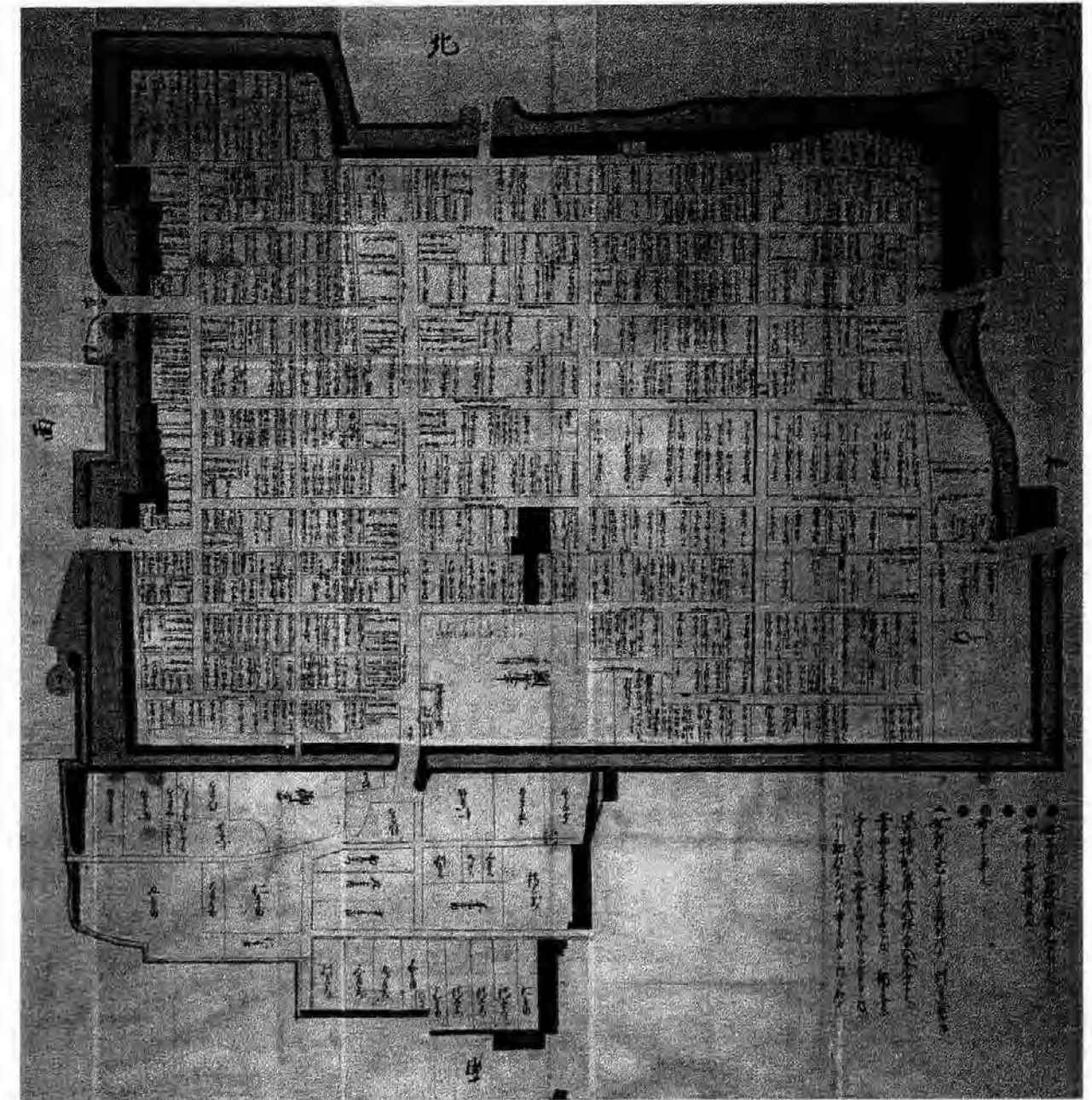
・『享保八年新検分間正絵図』(木村家絵図) (享保八年:1723年)

櫻井敏雄・大草一憲『寺内町の基本計画に関する研究—久宝寺寺内と八尾寺内を中心として—』八尾市教育委員会 1988

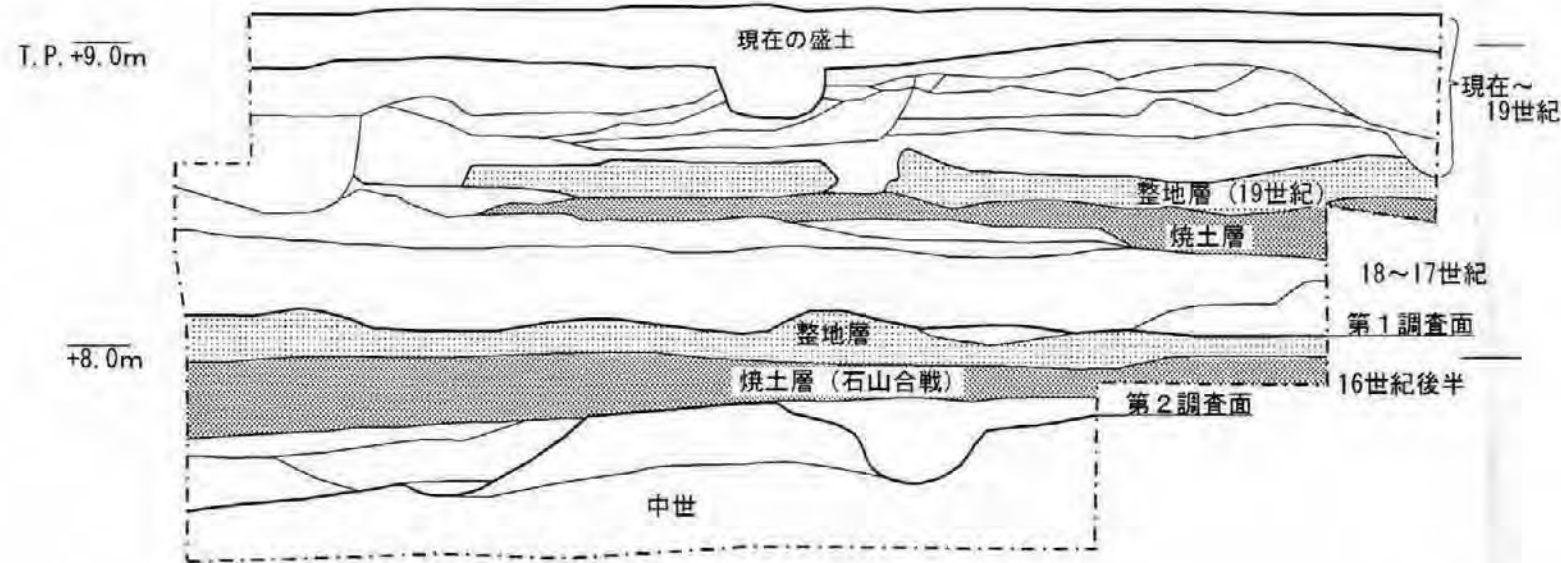
(注②) 元亀元年(1570)にはじまった、石山本願寺(一向宗)と織田信長の戦いで、天正八年(1580)まで続いた。天正五年(1577)に信長方についた久宝寺寺内町土豪の安井定重は、石山本願寺の兵に攻められ戦死した。

年表<久宝寺寺内町に関する主なできごと>

年号	西暦	事項
文明二年	1470	浄土真宗本願寺第八世法主 蓮如、久宝寺で布教活動を行う。
文明十一年	1479	久宝寺に西証寺建立と伝える。第21子実順が初代住持となる。
永正十五年	1518	実順が没し、子の実真が住持となる。
享禄二年	1529	実真が早世する。
天文三年	1534	石山本願寺と木沢長政の戦闘により、西証寺が焼亡したと推定される。
天文四年	1535	近江大津顕証寺の住持 蓮淳を迎えて住持とし、西証寺を顕証寺に改める。
天文八年	1539	蓮淳、子の実淳に顕証寺を譲って近江大津へ帰る。
天文九年	1540	木沢長政より顕証寺坊舎再興の儀について了承を得る。
天文十年	1541	細川晴元、久宝寺寺内に制札(寺内町特権)を下す。
天文十一年	1542	実淳が没し、蓮淳が再び顕証寺の住持となる。顕証寺に新御堂が完成する。
天正五年	1577	織田信長と協約した土豪の安井定重、石山本願寺の兵によって攻められ、戦死する。
天正九年	1581	織田信長から安井氏に対して禁制(寺内の支配権)が出される。
天正十年	1582	安井氏、京都より勧請し、許麻神社を創建する。
慶長五年	1600	顕証寺、徳川家康より朱印状を受ける。安井氏が、寺内の下代として支配する。
慶長十一年	1606	森本七朗兵衛ら17人、慈願寺とともに久宝寺寺内町を出て、八尾寺内町を創建。
慶長十九年	1614	大坂冬の陣で、久宝寺寺内町が戦場となる。
元和元年	1615	大坂冬の陣で、成安道頼ら大坂城内で戦死。安井九兵衛・平野藤二郎、南城川の開削を再開、道頓堀川と名付けられる。
元禄二年	1689	『元禄二年久宝寺村屋敷惣絵図』高田家絵図
享保八年	1723	『享保八年新分間正絵図』木村家絵図

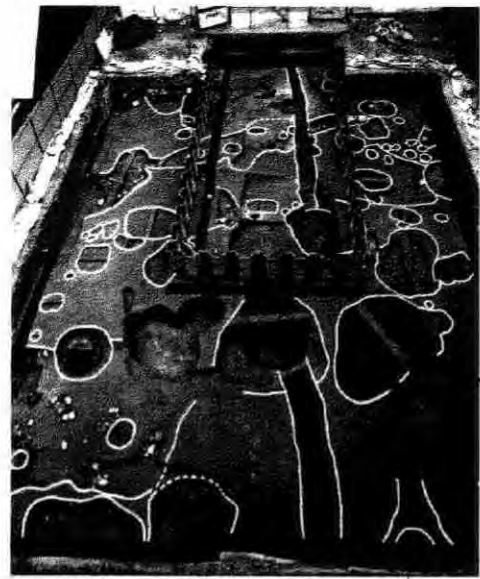


久宝寺村屋敷惣絵図 (高田家絵図) (注①から)

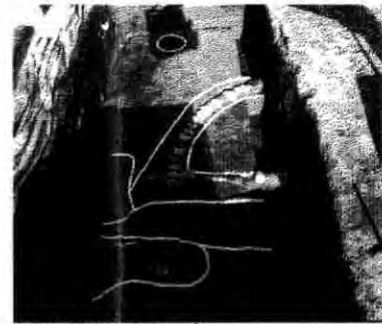
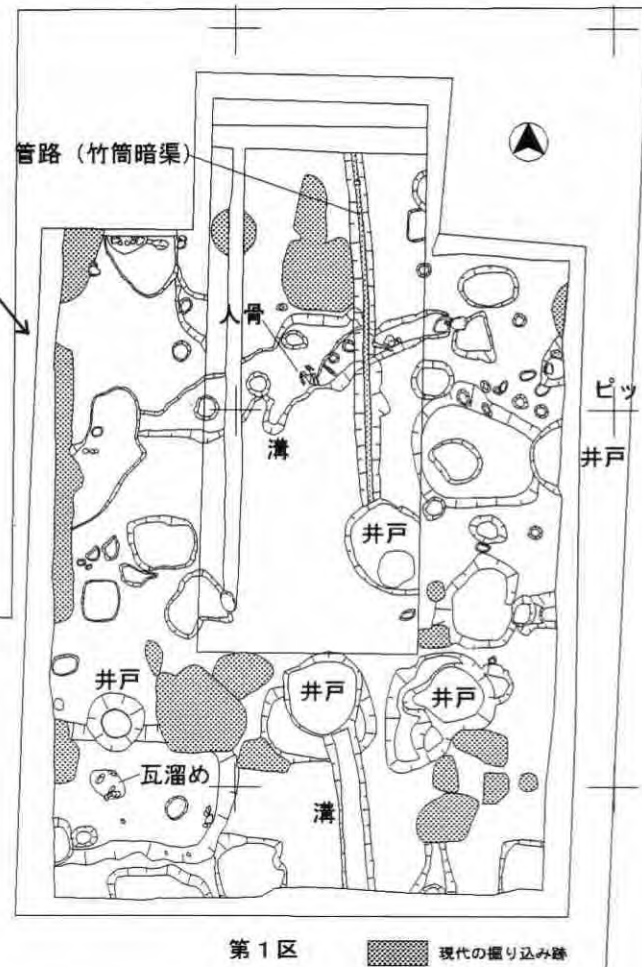


第1区北断面図

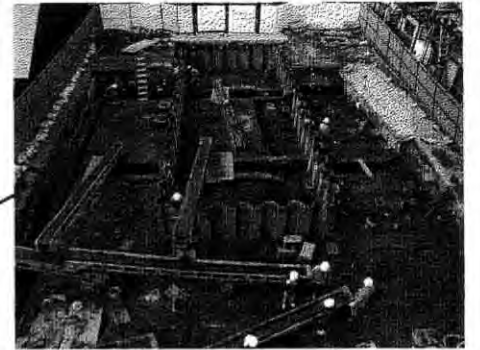
—メモ—



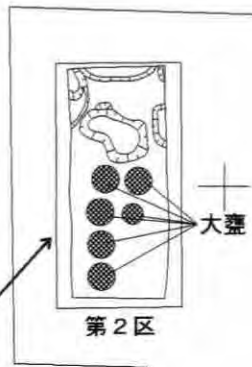
17~19世紀の遺構検出状況



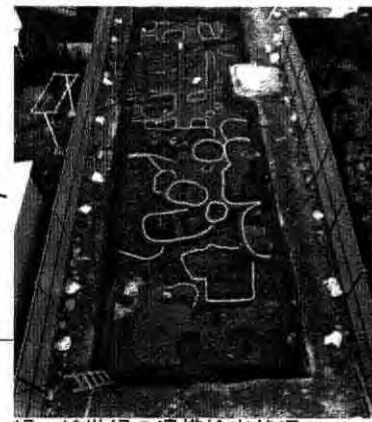
石列出土状況



調査風景

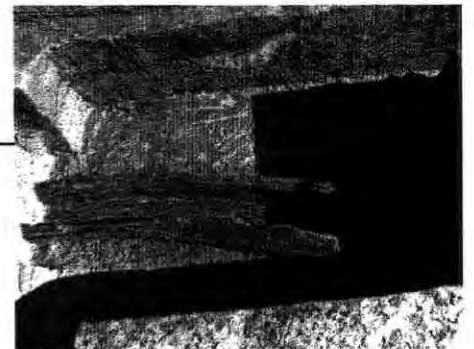
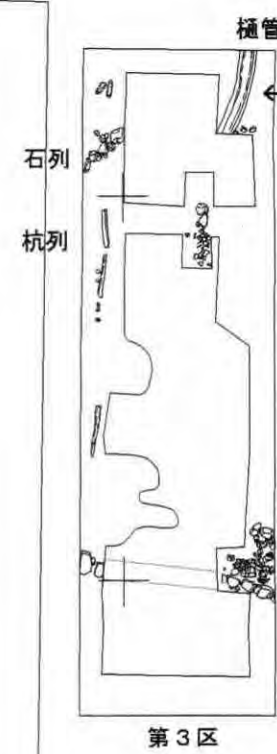
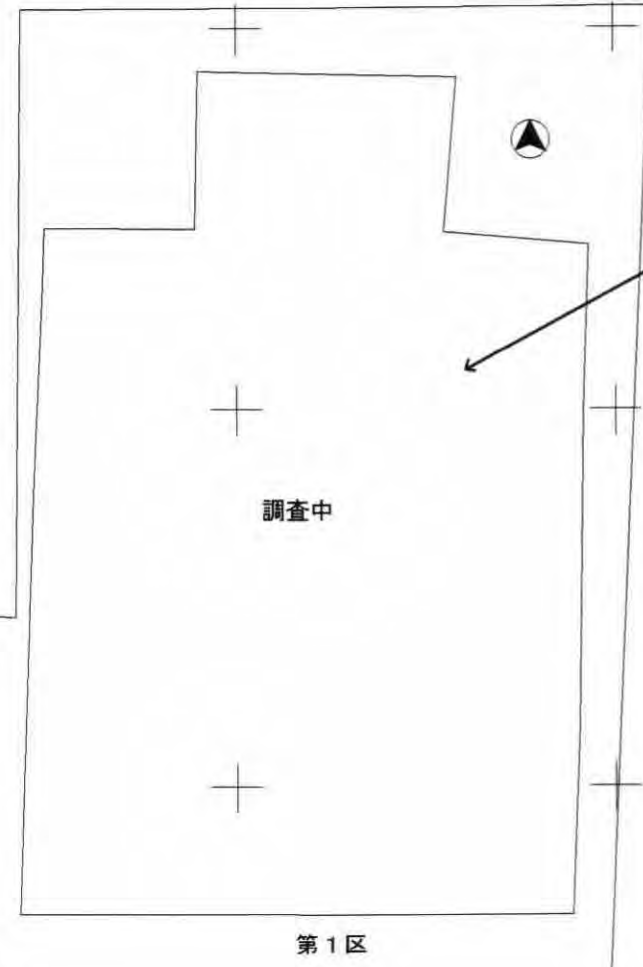
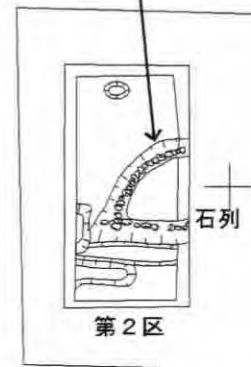


大壺出土状況



17~19世紀の遺構検出状況

第1調査面 (江戸時代 17~19世紀)



木樋出土状況



石組み水路

第2調査面 (室町~安土桃山時代 16世紀)